

栃木ダンプキャラバン(県、県警要請)8月2日に決定です。7月9日、埼玉中央生コン協同組合に単価問題などで要請を行いました。現場を知っている役員が対応していただき率直な意見交換ができました。

発行所 全日本建設交運一般労働組合  
栃木県本部 〒327-0315  
栃木県佐野市吉水駅前1-2-1  
0283-62-7312 fax 0283-62-7318  
http://www.kenkourou.or.jp/  
E-mail:DQJ06744@nifty.com

# CTGの建交労 とちぎ

## 運転中の突然死を防ぐために



7月1日、組合員飯塚勇二さん(72)は、ダンプで栃木市内を運転中、急性心筋梗塞を発症し亡くなりました。  
謹んでご冥福をお祈りするとともに、あらためて健康管理と事故防止について考えます。

飯塚さんは当日、いつものように夜2時30分頃自宅を出発し、2回目の砕石運搬の途中に発症しました。走りなれた栃木市岩舟町内の県道を50号バイパス方向に向かうところでした。運転席で意識を失いゆっくり対向車線に進入し、歩道に乗り上げた状態で停止しました。交通量

の多い道路ですが、対向車はいませんでした。「いままで病気で入院したこともありませんが、血圧が高く定期的に血液検査を受けていたのですが、最近特に変わった様子はありませんでした。健康診断は受けていませんでした。仕事

忙しく、長年行けなかつたようです。心臓病は三大死因のひとつですが、定期的な心電図検査で予防することも可能です。  
高血圧や糖尿病で定期的に病院で検査を受けている組合員は少なくありません。しかし、通院していること「健康診断を受けている」と誤解してしまっている人もいます。血液検査でわかることは限定されています。

脳、心肺機能に影響を与える血圧はつねに変動しています。運転すること自体が心身へのストレスになっており、正常な人でも運転を始めると30〜40mmHgも血圧が上昇するという調査結果があります。ご遺族は悲しみのなか組合員の教訓になればと、機関紙掲載に協力いただきました。けっして人ごとではありません。

## 運転における健康リスクセルフチェックシート

定期健診を受けていない	はい	いいえ
健診で精密検査を指摘されたが行ってない	はい	いいえ
検査で治療を勧められたが行ってない	はい	いいえ
病院で一度薬をもらったがその後行ってない	はい	いいえ
深夜運転などすることを医師に報告していない	はい	いいえ
持病の薬を飲み忘れることがある	はい	いいえ
薬が切れ運転中気分が悪くなったことがある	はい	いいえ
長時間運転のため定時に薬が飲めない	はい	いいえ
初めての薬で運転中眠くなったことがある	はい	いいえ
⑩ 風邪薬などで運転中ボーっとしたことがある	はい	いいえ
糖尿病治療中でまれに低血糖になる	はい	いいえ
昼間に急に眠気に襲われることがある	はい	いいえ
血圧が高めで長時間運転時に頭痛が起こる	はい	いいえ
運転中にヒヤッとして動悸が続いたことがある	はい	いいえ
深夜運転を控えるよう医師に言われた	はい	いいえ

【 から の質問に「はい」があった人へ】  
長年受診していない人、結果を軽視し再検査を後回しにしている人が少なくありません。今は自覚症状がなくても運転中に発症する場合も。深夜運転をする人は医師に報告して検査、診察を。

【 から⑩の質問に「はい」があった人へ】  
薬の副作用と服用しない危険を意識してください。医師が長時間運転労働を知らずに薬を処方するケースがあります。休日に眠気など副作用がないか試してみることも重要です。

【 から の質問に「はい」があった人へ】  
糖尿で血糖値を自己管理している人はインスリンの量など低血糖に細心の注意が必要です。また、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の人は猛烈な眠気に襲われます。自覚のある人はSAS検査を。

埜田和史滋賀医科大准教授(医学博士)監修  
「健康管理と安全運転」から抜粋

今月は1面2面ともに重い内容になってしまいました。しかし、どちらもいま、私たちが向き合うべき重要な課題です。

# 「がんばろう」も「絆」も忘れつつある日本 福島原発事故被災地の現状

2011年3月に発生した東日本大震災と福島第一原発事故。発生後1〜2年日本中を飛び交った「がんばろう」や「絆」といった言葉はすでに消費された感があります。「風化」は進めど「復興」は進まない、原発被災地の今を報告します。

組合では原発事故の翌月から毎月福島でのボランティア活動を続けています。ここ数年は「除染的活動」として伐採等に取り組んできました。6月22〜23日、大熊町立熊町小学校の草刈りに行きました。第一原発から約3キロにある小学校は帰還困難区域に指定されており、立ち入りは制限されています。

事前に特別許可を申請し、当日はスクリーニング場で防護服と線量計を渡されます。滞在は5時間以内と決められています。

依頼主は町ではなく、津波の犠牲になった児童の父親木村紀夫氏でした。震災で父親、妻、そして当時7歳だった娘の汐風(ゆづな)ちゃんを亡くしました。汐風ちゃんは長い間行方不明でしたが、2016年12月、骨の一部が見つかりDNA鑑定で確認されました。汐風ちゃんは小学校が大好きだったので、参加者一同体力の限界に挑戦する決意で作業開始！



スクリーニング場

熊町小学校は現在百キロ離れた会津若松市に移転しています。学



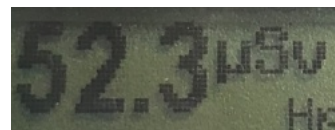
廃墟が進む熊小



暑くて防護服着てられない

校庭に設置されている放射線量を測定するモニタリングポストの値は3.7マイクロシーベルト、いまだ都内の約百倍です。ところが貸与された線量計で地表を量ると10マイクロ以上で表示されます。安倍首相は東京五輪招致演説で「原発事故の被害はコントロールされている」と世界に大嘘をつきました。

来年3月「復興五輪」の聖火が、この大熊町も走ることが発表されました。ランナーの走る道路は徹底的に除染するのでしよう。そして「復興」を世界にアピールすることでしょう。



5時間の積算線量52.3マイクロシーベルト

作業は校庭と校舎周りにわかれ計13名で行いました。本来であれば防護服を着用すべきですが、着ると暑くて作業ができません。震災前、生徒たちも親しんだであろう樹木は枝が伸び放題、ツタが旗を揚げるポールの先まで登っています。草刈り以外の剪定、伐採作業に多くの労力を費やすことになりました。2日間で刈った草木はトン袋30個以上に。それでも作業は完了しませんでした。

蔵施設区域にあたり、子供たちが戻ることは困難です。震災当時、原発事故の影響により行方不明者の捜索は行われませんでした。原発がなければ、汐風ちゃんも早くお父さんのもとに帰ることができたでしょう。



校舎前の密林を切り開く



あの日のままの自転車置き場

現在第一原発のある大熊町と双葉町に国は「中間貯蔵施設」を建設しています。福島県内各地から除染によって発生した土壌等が「一定期間保管する」という名目で運ばれます。熊町小学校も中間貯

福島第一原発でつくられた電力は、栃木県を含めた関東に供給されています。ボタンひとつで電気が流れる便利で快適な生活、その電気がどこの誰にリスクを押しつけて作られているかも考えずに生活してきましました。安全保障リスクを沖繩に負担させているように。そしてまた都合よく忘れようとしています。自覚なき差別者としての私たちの本性は、



あの日のままの教室



あの日のままの玄関

どんな大惨事があるとも、簡単に変わるものではないようです。作業中何度か、誰もいないはずの校舎から子供の視線を感じました。冷やかな視線です。

7月21日投票が行われた参議院選挙。全国の一人区では、原発の再稼働に固執する自民党が22議席、脱原発の公約を掲げる野党統一候補は10議席、そして、有権者の半数以上が投票に行きませんでした。